

5. 日進市地域公共交通計画

1) 地域公共交通の基本的な方針

第6次日進市総合計画

計画期間：2021年度(R3)～2030年度(R12)

ともに暮らす
私たちがつないで創る
人とみどりを大切にするまち 日進

日進市都市計画マスタープラン

計画期間：2021年度(R3)～2030年度(R12)

豊かな緑を尊重し、都市の活力と
多様な交流でにぎわう
持続可能な都市環境を私たちが育む

<地域公共交通の基本的な方針>

みんなで支える公共交通環境が、活力とにぎわいを生むまち

第6次日進市総合計画など上位・関連計画を踏まえ、市民や地域、行政、鉄道事業者やバス事業者をはじめとした民間の交通事業者など、本市の地域公共交通に関わるすべての関係者が連携・協働することにより、それぞれの公共交通の運行が確保された移動環境が整い、本市内外での交流・対流が促されるまちを目指します。

■地域公共交通の課題

課題1

住宅地と拠点をつなぐ幹線機能の充実

課題2

乗継拠点の整備・利便性向上

課題3

増加する高齢者への対応

課題4

あらゆる世代のニーズや地域の特性を踏まえた交通手段となっている必要がある

■地域公共交通の方針

方針1

市内外の拠点へアクセスし、都市としての発展を支える交通を確保・維持します

方針2

にぎわいある中心交通拠点を整備し、多様な交通が連携した乗継環境を創出します

方針3

子どもから高齢者まで、みんなが利用しやすい地域に根ざした公共交通体系を構築します

方針1

市内外の拠点へアクセスし、都市としての発展を支える交通を確保・維持します

- 本市の通勤・通学流動は主に名古屋市や豊田市との結びつきが強く、これを保持することは本市の都市機能上大変重要であることから、今後も引き続き、東西方向の公共交通幹線軸の運行を維持していく必要があります。
- 都市の発展を支えるうえで必要となる公共交通ネットワークを形成するために、東西方向の公共交通幹線軸と連携し、市内の各拠点や長久手市、東郷町、みよし市といった南北に隣接する都市との交流・対流を促す南北方向の公共交通軸の運行を維持・確保していく必要があります。また、沿線の人口集積や移動ニーズを適切に捉え、住宅地と鉄軌道駅や主要な集客施設を相互に連絡する準幹線の運行を維持・確保することが必要です。
- 効率的で有効的なバスネットワークを構築するためには、数多くの大学が立地し、鉄軌道駅と市内の各大学を結ぶスクールバスが運行されているという本市の特性を活かし、このスクールバスを本市の既存交通資源として捉え、活用を目指します。
- 本市が継続的に持続・発展していくために、サステナブルな社会の実現に向けて、二酸化炭素排出量の削減に資する環境負荷の小さい移動手段である公共交通を便利に利用できるまちづくりを進め、公共交通の適切な利用に資する行動変容を目指します。

方針2

安全・安心なバス停利用環境の改善と、にぎわいある中心交通拠点を整備します

- 通勤通学目的での鉄軌道駅の利用に加え、プライムツリー赤池やイオンモール長久手、ららぽーと愛知東郷の開業により、買物目的での都市内外の移動需要が高まっていることから、鉄軌道駅や大規模商業施設等に付帯・隣接する主要なバス停について、公共交通の安全な運行と便利な利用を確保する空間・施設を整備・改善する必要があります。
- 本市中心部には、路線バスやくるりんばす、タクシー等の公共交通相互や他の交通手段との乗継ぎが可能となる交通拠点を整備する必要があります。交通拠点は、ただバスを待つだけでなく、公共交通を楽しく利用できるようになる「にぎわいのある」拠点となることを目指します。
- 各バス停においては、高齢者や障害者が安全に乗降できるよう、バリアフリーな環境が整っている必要があります。
- くるりんばすは、市内の移動において重要な役割を担っており、1回の乗継ぎで市内のどこへでも行けることをコンセプトとしています。くるりんばす相互やくるりんばすと他の公共交通との乗継ぎをスムーズに行うためには、様々な方法による運行情報等の積極的な提供や乗継にかかる割引等について検討・実施する必要があります。

方針3

子どもから高齢者までみんなが利用しやすい地域に根ざした公共交通体系を構築します

- 本市は、合計特殊出生率が県・全国平均を大きく上回って増加傾向で推移している全国でも稀な子どもが増加しているまちである一方、高齢化率も継続的に増加していることから、暮らしの中で公共交通を利用する行動様式を学び、実践する取組みや、公共交通の利用を高める取組みを積極的に展開することで、子どもから高齢者までみんなが利用しやすい持続可能な公共交通を目指します。
- 市内においても地域によって人口分布や年齢構成により移動ニーズは異なっていることから、地域の移動ニーズに応じた適切な移動手段を地域が主体となり研究・検討する場や導入の可能性を検証する場の設置およびその活動を支援が必要です。また、これら活動を通じて公共交通への愛着や興味・関心を高める取組みの支援が必要です。
- 安定的に地域公共交通の運営を継続するうえで、企業や地域へくるりんばすの運行を支える取組みへの協力・協賛が必要です。また、高齢者移動支援事業は、原則としてボランティア活動であり、地域福祉的な機能や役割が期待されていることから、地域住民の移動に関する取組みや既存資源の活用等に関する協議・調整等の支援が求められています。

2) 地域公共交通の役割と位置づけ

本市内の鉄道路線では3つの鉄道駅を有しており、周辺に存在する鉄道駅とともに名古屋市や豊田市方面への広域的な移動手段として機能しています。また、五色園や香久山、竹の山周辺の住宅地からは、民間の路線バスが名古屋市方面への移動手段として重要な役割を果たしており、こうした基幹的な路線を軸とした地域公共交通網を段階的に形成するものとします。

こうした基幹的な公共交通軸は市の南北に存在し、東西方向へ運行されていることから、南北方向への移動や市の中央部における東西方向の移動における幹線機能を有した路線を配置することで、市民の比較的広域な移動需要に対応します。

日進市が運行するくるりんばすは、一定程度の幹線機能を有しながら地域住民の生活に合致した運行をするとともに、より地域事情に密着したきめ細やかな移動サービスとの連携を図ることで、一体的な地域公共交通環境をつくります。

図 地域公共交通の将来ネットワークイメージ

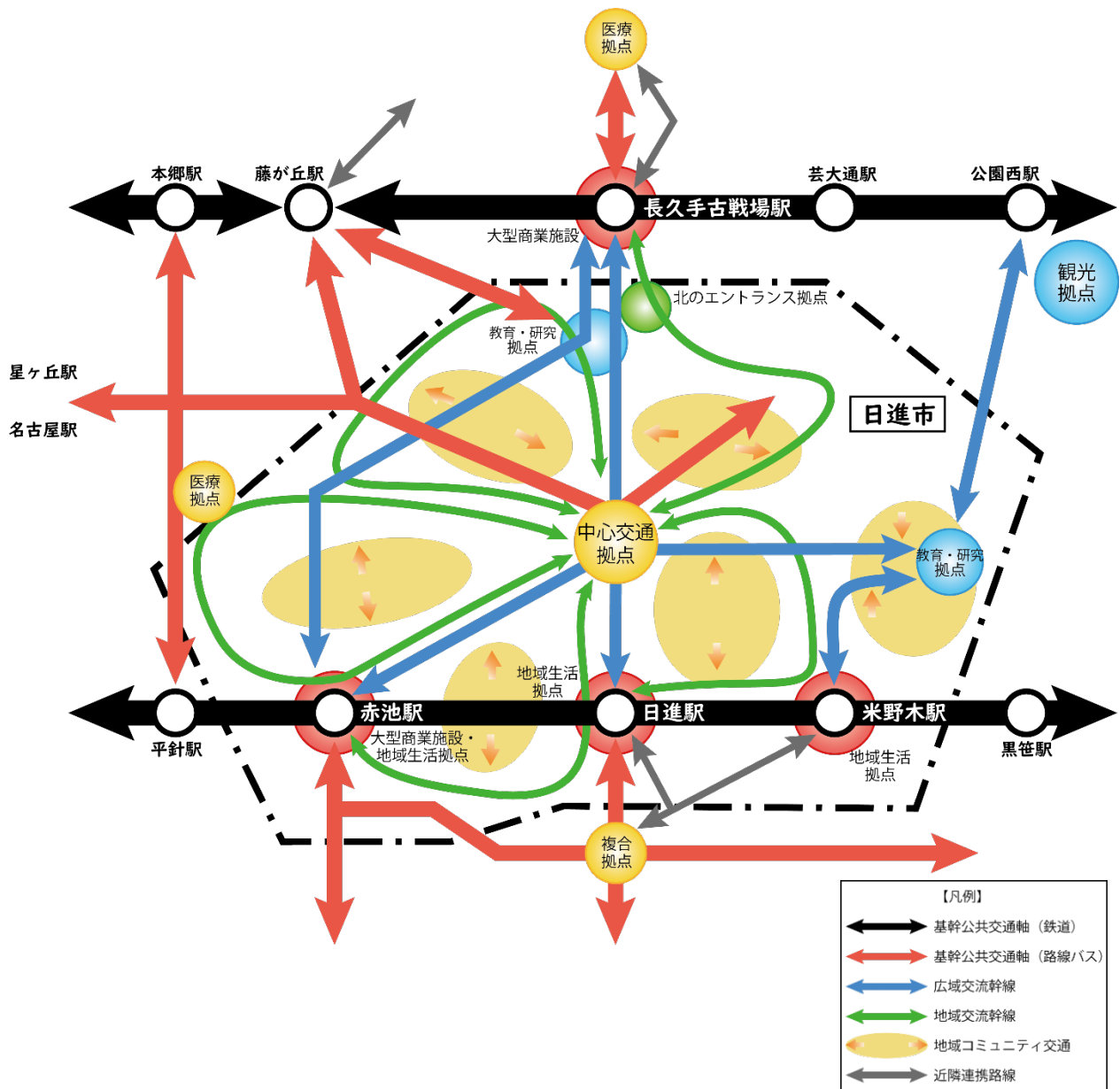


表 地域公共交通の機能・役割

機能分類	路線の機能・役割とサービス水準	運行主体	該当する現行路線
基幹 公共交通軸 (鉄道)	- 通勤・通学を主として、買物や通院など様々な目的に対応 - 本市と周辺市町を連絡する路線 - 広域的な移動需要に対応した高いサービス水準で運行	交通事業者	- 名古屋鉄道豊田線 - 名古屋市営地下鉄東山線・鶴舞線 - 愛知高速交通東部丘陵線(リニモ)
基幹 公共交通軸 (路線バス)	- 通勤・通学を主として、買物や通院など様々な目的に対応 - 本市と周辺市町を連絡する路線 - 鉄道と一体的に本市の公共交通の軸として機能し、広域的な移動需要に対応した高いサービス水準で運行	交通事業者	名鉄バス(都市間路線)
広域交流路線 (幹線)	- 通勤・通学、買物や通院など様々な目的に対応 - 各拠点間を結び、基幹公共交通軸を補完 - 各路線沿線の移動需要に応じたサービス水準で運行	- 交通事業者 - 日進市 - 学校法人	- 名鉄バス(都市内路線) - くるりんばす(循環線) - 大学スクールバス
地域交流路線 (準幹線)	- 買物や通院などを主とするほか、通勤・通学目的に対応 - 市内移動の核となる中心交通拠点を起点に、各地域の移動需要に即したサービス水準で運行	日進市	くるりんばす(循環線を除く)
地域 コミュニティ 交通	- 買物や通院などの目的に対応 - 上記幹線交通と連携した運行により、地域の交流を促進する役割 - 各地域の移動需要に即したサービス水準で運行	- 日進市 - 地域	- くるりんばす(循環線を除く) - 少量輸送(デマンド型交通等)
近隣連携路線	- 本市と周辺市町を連絡する路線 - 必要に応じて本市内の交通と連携し、尾三地区の南北方向への移動需要に対応したサービス水準で運行	- 長久手市 - 東郷町	- 長久手市N-バス(各路線) - 東郷町じゅんかい君(各路線)
個別輸送	- 上記の地域公共交通とは空間的・時間的な補完関係を構築 - 個々の移動需要に応じたサービスを提供	交通事業者	一般タクシー

福祉有償運送事業や高齢者移動支援事業については、不特定の方が利用する交通を前提とした本市の地域公共交通として一体的に扱うことはありませんが、上記の表中の移動手段を利用できない要介護者、身体障害者などの移動困難者については、日常生活及び社会生活を営む上で、安全・円滑・快適に移動することができるよう他の個別計画と連動し、合理的な配慮に基づいた運用や交通施設(車両、駅、停留所、案内表示、道路施設など)の整備及びその他必要な措置を講ずるものとします。

3) 計画対象地域及び計画期間

(1) 計画対象地域

計画対象地域は、日進市に関連する公共交通全体のネットワークのあり方を一体的に取り扱うことから、日進市全域とします。

なお、周辺市町との連携にあたっては、個別に協議・調整を図ります。

(2) 計画期間

計画期間は、第6次日進市総合計画、日進市都市マスタープランなどの上位・関連計画における計画期間との整合を図るため、2022年度（令和4年度）～2030年度（令和12年度）までを計画期間とします。

	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
総合計画										
都市計画 マスタープラン										
地域公共交通計画										

4) 計画の目標

本計画の目標について以下に整理します。

(1) 計画目標

日進市内の公共交通利用者数

現況値：19,082,598 人／年

≫

目標値： 人／年

※現況値は 2019 年(令和元年)の鉄軌道各駅乗車人員、路線バス、くるりんばす、タクシーの利用者数の合計

(2) 方針別目標

方針 1

幹線軸の公共交通利用者数

現況値：18,722,984 人／年

≫

目標値： 人／年

※現況値は 2019 年(令和元年)の鉄軌道各駅乗車人員、路線バス利用者数の合計

方針 2

「乗り継ぐバス停の待合い環境」の不満割合

現況値：12.2%

≫

目標値： %以下

※バス利用者アンケートにおいて、上記項目の満足度として「やや不満」もしくは「不満」と回答した割合

方針 3

市民の公共交通利用割合

現況値：75.4%

≫

目標値： %以上

※市民アンケートにおいて、鉄道、路線バス、くるりんばす、一般タクシーの直近の利用状況で「利用していない」または「無回答」以外の回答をした市民の割合

5) 目標を達成するために実施する事業

前項までに整理した方針とその目標を達成するために実施する事業について以下に整理します。

表 目標を達成するために実施する事業

基本方針			実施事業
方針1	方針2	方針3	
○			①需要に応じた東西方向の公共交通幹線軸の運行維持
○		○	②既存路線の見直しによる南北方向の公共交通軸、準幹線の確保・維持
○		○	③既存交通資源を活用した新規幹線の導入に向けた検討
○		○	④環境にやさしい公共交通を便利に利用できる環境整備の推進
	○		⑤公共交通の安全な利用と運行を確保する施設・空間の整備・改善
	○	○	⑥公共交通を楽しく利用できるイベントの開催等
	○	○	⑦バスコンシェルジュサービスの実施
○	○	○	⑧公共交通を安心して利用できる情報・案内の提供
	○		⑨乗継割引や乗継券のあり方の検討
○		○	⑩公共交通を学び、利用を高める取組みの展開
		○	⑪公共交通を考え、愛着や興味・関心を高める取組みの支援
○		○	⑫公共交通の運行を支える企業・地域の取組みの支援

また、これらの事業は「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けた取組みの一環となるため、関連する目標についてアイコンで示します。



①需要に応じた東西方向の公共交通幹線軸の運行維持		方針1	方針2	方針3	9 産業と経済活動の基盤をつくる	11 住み続けられるまちづくりを
		○				
事業内容	市内外拠点への移動の利便性を確保するため、名鉄豊田線や名古屋市営地下鉄鶴舞線・東山線、リニモといった鉄軌道及び名鉄バス岩藤線等の路線バスは、通勤・通学を主とした名古屋市や豊田市方面への需要に対応する運行サービスの提供を維持します。					
実施主体	交通事業者					

【事業事例等】

現在、名古屋市へは市南部から名古屋市営地下鉄鶴舞線、豊田市へは名古屋鉄道豊田線が結んでいます。市外北部の長久手市からは、名古屋市へ東部丘陵線（リニモ）が都市間交通需要に対応しています。

また、名鉄バス岩藤線は本市と名古屋市を、名鉄バス星ヶ丘・豊田線は本市と東郷町やみよし市、豊田市を結んでおり、都市間交通需要に対応する基幹的バスとして機能しています。

表 東西方向の公共交通幹線軸路線の運行状況（2021 年(R3 年)12 月現在）

路線		運行本数		運行時間帯	
		1 日あたり	ピーク時 1 時間あたり	始発	終着
鉄道	名古屋市営地下鉄 鶴舞線	328 本	28 本（8 時台）	5:30	0:30
	名古屋鉄道 豊田線	158 本	12 本（7・8 時台）	5:48	0:10
	東部丘陵線（リニモ）	262 本	17 本（8 時台）	5:39	0:12
路線バス	名鉄バス 岩藤線	93 本	10 本（7 時台）	6:04	23:32
	名鉄バス 星ヶ丘・豊田線	116 本	9 本（7 時台）	6:34	22:20

※運行本数：名古屋市営地下鉄鶴舞線では赤池駅、名古屋鉄道豊田線では日進駅、東部丘陵線（リニモ）では長久手古戦場駅、名鉄バス岩藤線では五色園バス停、名鉄バス星ヶ丘・豊田線では赤池駅バス停での発着本数の合計

※始発・終着：名古屋市営地下鉄鶴舞線及び名古屋鉄道豊田線では赤池駅、東部丘陵線（リニモ）は長久手古戦場駅、名鉄バス岩藤線では五色園バス停、名鉄バス星ヶ丘・豊田線では赤池駅バス停での発着時刻

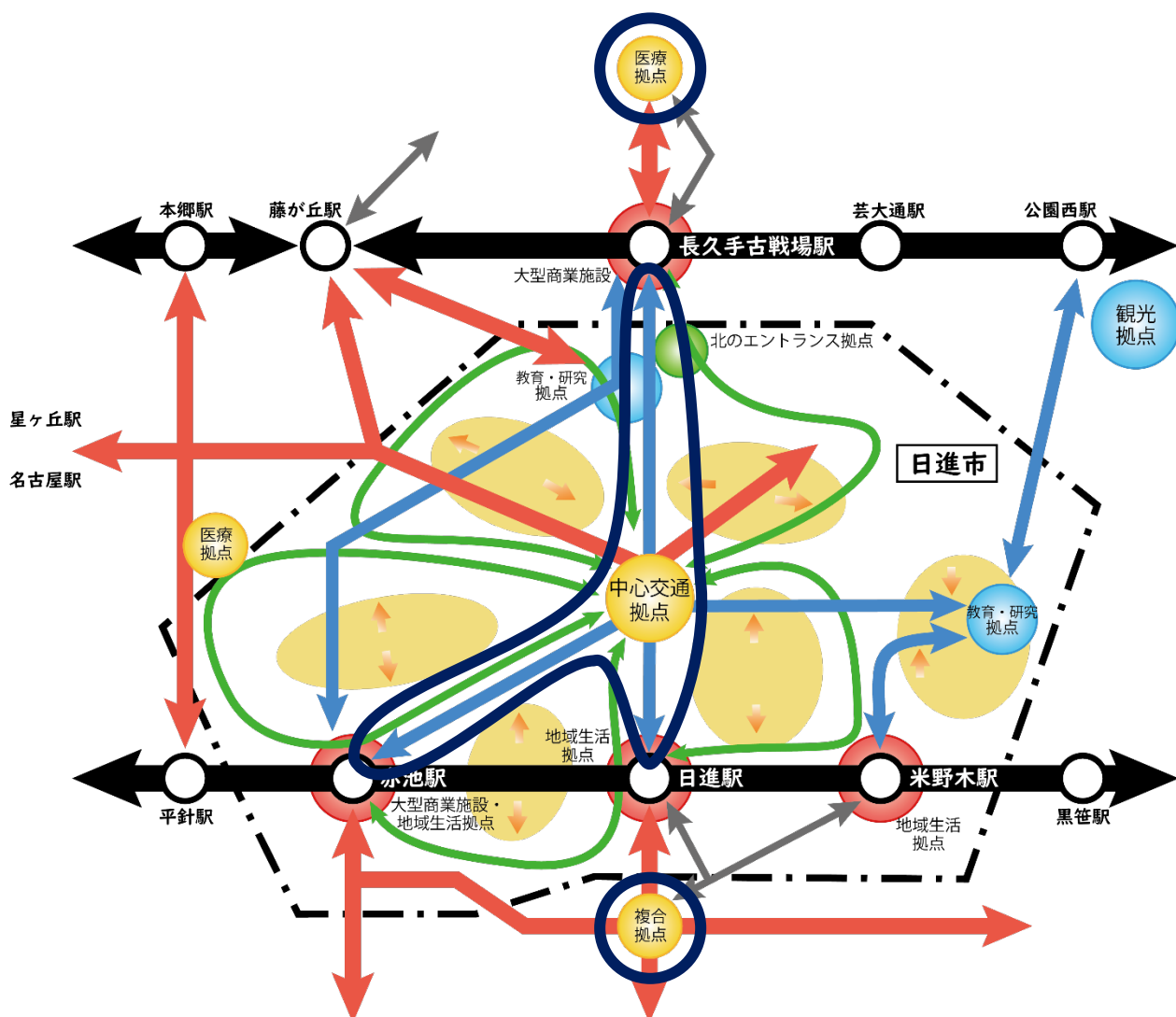
※路線の系統：名鉄バス岩藤線は五色園発着の 2 系統、名鉄バス星ヶ丘・豊田線は赤池駅～豊田市間を運行する 2 系統の合計

②既存路線の見直しによる南北方向の公共交通軸、準幹線の確保・維持 ※地域公共交通利便増進事業		方針1	方針2	方針3	9 駅を中心とした公共交通の利便性を高める 	11 駅を結びつなげる公共交通の利便性を高める 
		○		○		
事業内容	名鉄バス日進中央線やくるりんばす循環線等について、本市における南北方向の公共交通軸として運行サービスの提供を確保・維持します。 また、沿線の人口集積や移動ニーズを踏まえた、くるりんばすの機能や運行形態、ルート、サービス水準等の見直しを実施し、市内の住宅地と鉄軌道駅や主要な集客施設等を相互に連絡する幹線・準幹線の機能を確保します。					
実施主体	日進市・交通事業者					

【事業事例等】

名鉄バス日進中央線やくるりんばす循環線は、赤池駅や日進駅と長久手古戦場駅を結ぶ南北方向の公共交通軸として機能しています。これらの路線は市内の南北移動だけでなく、愛知医科大学病院やららぽーと愛知東郷など、周辺都市の主要な医療・商業施設と本市とのアクセスを可能にする役割があります。

図 地域公共交通の将来ネットワークイメージ（再掲）



③既存交通資源を活用した 新規幹線の導入に向けた検討 ※地域公共交通利便増進事業		方針1	方針2	方針3	
		○		○	
事業内容	鉄軌道駅と市内の大学を結ぶスクールバスについて、一般客の混乗や途中バス停への停車等の活用に向けて、大学や関係機関との協議・調整を進めます。				
実施主体	日進市・大学・関係機関				

【事業事例等】

本市内には5つの大学が立地しており、各大学でそれぞれスクールバスを運行しています。

図 本市の大学立地状況

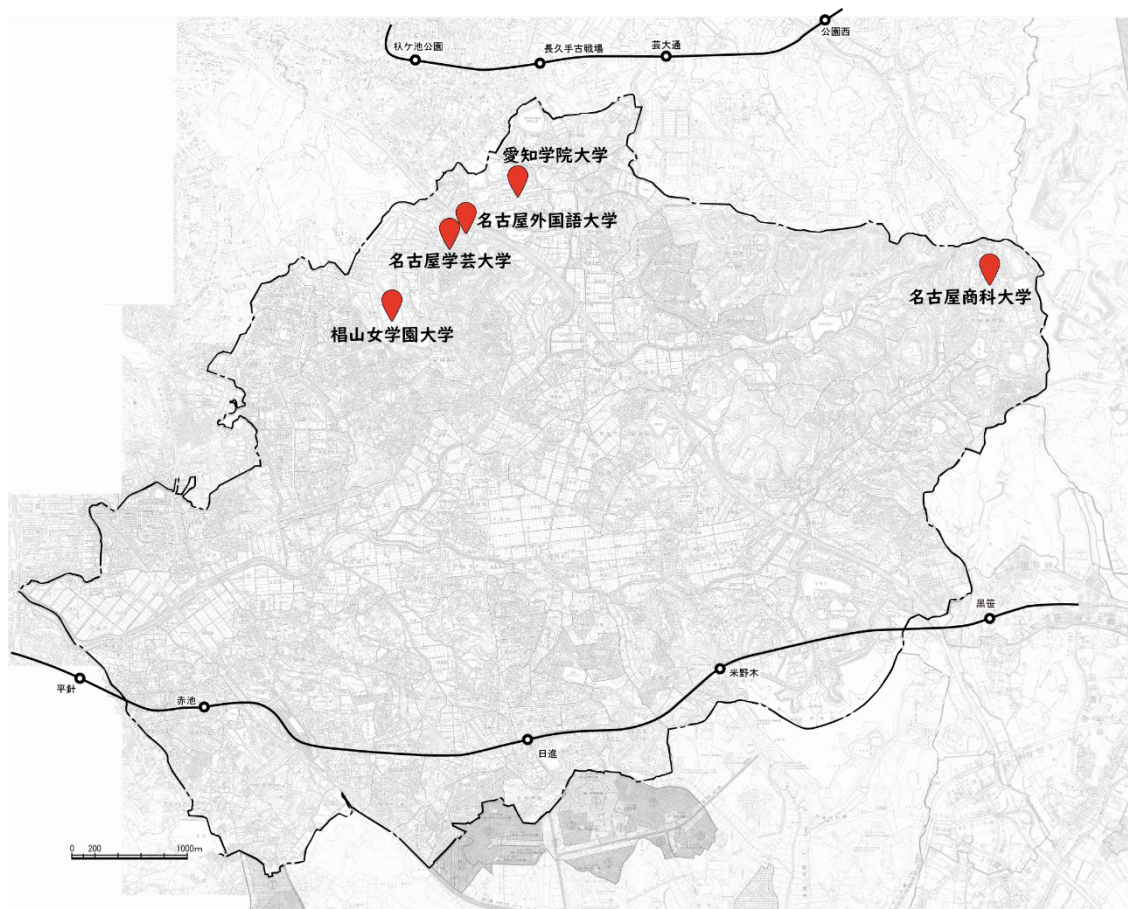


表 市内に立地する大学のスクールバス

	路線名	運行本数 (本/日)	運行時間帯		料金
			始発	終着	
名自へ 鉄運大 バ行学 ス独	名古屋商科大学線 (赤池駅～名商大)	22	7:37	20:55	350円
	名古屋商科大学線 (公園西駅～名商大)	41	7:55	20:29	160円
ス ク ー ル バ ス	長久手古戦場駅～ 愛知学院大学・名古屋外国語大学・名古屋学芸大学	61	8:03	20:14	無料
	上社～名古屋外国語大学・名古屋学芸大学・ 名古屋学芸大学短期大学部	210	7:40	22:20	無料
	赤池～名古屋外国語大学・名古屋学芸大学・ 名古屋学芸大学短期大学部	98	8:00	22:40	無料
	赤池～榊山女学院大学日進キャンパス	27	8:40	18:50	無料
	榊山女学院大学星ヶ丘キャンパス～ 榊山女学院大学日進キャンパス	58	8:40	19:30	無料

④環境にやさしい公共交通を便利に 利用できる環境整備の推進		方針1	方針2	方針3	3 すべての人に 健康と福祉を	7 気候変動に 適応する	13 気候変動に 適応する
		○		○			
事業内容	本市内において市民や来訪者が過度な自家用車利用を抑えられるよう、土地区画整理事業の実施においてはバス利用が促進されるように配慮した計画とするなど、公共交通を便利に利用できるまちづくりを進めます。 また、運行車両における取組みとして、車両更新時には環境負荷の低い車両を導入します。						
実施主体	日進市・市民・企業・大学等						

【事業事例等】

従来のディーゼル燃料からバイオディーゼル燃料への転換といった取組みをはじめ、新しい環境基準を満たしている車両や、電気バス(EV)、燃料電池バス(FCV)等といった車両へ転換する取組みを通じて、より環境負荷の低い公共交通の運行に繋がります。

図 自動運転電気バス「NAVYA ARMA」



(資料：境町 Web サイト)

図 燃料電池バス導入事例



(資料：豊田市 Web サイト)

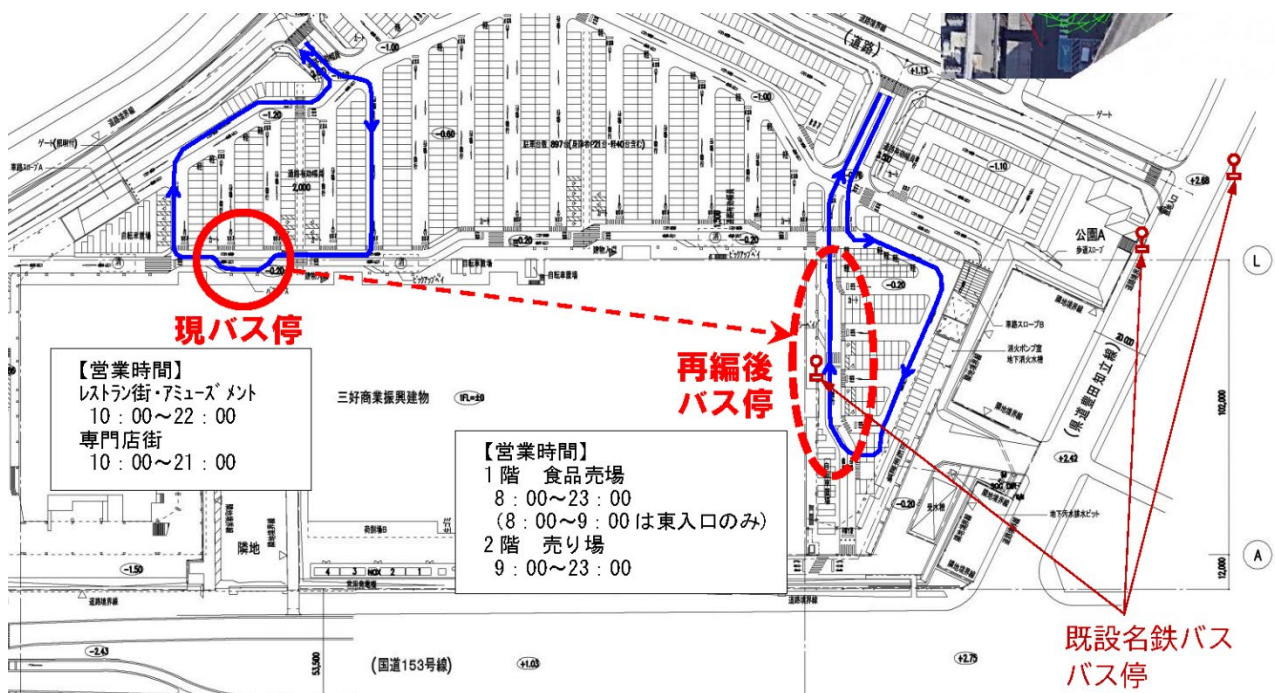
⑤公共交通の安全な利用と運行を 確保する施設・空間の整備・改善		方針1	方針2	方針3	9 駅周辺等公共交通の 利便性向上	11 公共交通の利便性 向上
事業内容			○			
実施主体		日進市・交通事業者				

【事業事例等】

みよし市では、コミュニティバス「さんさんバス」の再編に合わせて、市中心部に立地する商業施設「アイモール三好」と連携し、バス停移設による乗継拠点を整備しました。

バス停車帯の拡張や路線バス停留所との一体化、バス通路の路面標示を行うとともに、バス利用者が多く利用するスーパーマーケットに近い位置にバス停を移設しました。

図 〇〇



(資料：みよし市地域公共交通会議資料)

⑥公共交通を楽しく利用できる イベントの開催等		方針1	方針2	方針3	3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	11 住み続けられる まちづくりを
			○	○			
事業内容	交通拠点における交流・対流を促進する多様な施設(商業・飲食・娯楽等)の集積や、地域と連携したイベントの開催、マルシェやキッチンカーの設置等、にぎわいを創出する取組みを関係課と連携して展開します。						
実施主体	日進市・交通事業者・地域・企業						

【事業事例等】

長久手市の「公共交通応援隊キッズイベントグループ」では、将来の公共交通利用者である子どもに親しみを持ってもらうことや、イベントを交流の場として公共交通の利用促進を図ることを目的として、子ども向けのイベントの企画・運営しています。

図 公共交通応援隊キッズイベントグループの活動内容

取組・活動内容

ながくて のりもの フェスタ（2019年9月8日）

Nーバス運転手体験
& 撮影会



ダンボールリノモ
に乗ろう！



Nーバス ペーパークラフト
(小物入れ)
プラバン作り

景品や参加賞も用意！

スタンプラリー



リノモ制服試着体験

公共交通体験記展示ブース

写真クイズブース

タクシーPRブース



公共交通交流会（2015年度、2017～2019年度）

（資料：令和元年度「エコ モビリティ ライフ推進表彰」資料）

⑦バスコンシェルジュサービスの 実施		方針1	方針2	方針3	3 すべての人に 安心と安全を 
			○	○	
事業内容	くるりんばすの利用案内、乗降時の補助等、安心・安全な利用を支援するバスコンシェルジュサービスを実施します。				
実施主体	日進市				

【事業事例等】

路線バスにより安心して乗車できる環境づくりと、旅客サービスの向上を目指し、岐阜バス案内人「シェルパ」が、主要ターミナルである JR 岐阜駅、名鉄岐阜バスターミナル、名鉄岐阜（神田町通り）で活動しています。岐阜バス運行エリアでのイベント時には、イベント会場での案内も行っています。

活動内容は以下の通りです。

- 路線バスに乗り慣れていない方への案内サービス
- 障がいのある方への乗降介助
- 観光客への案内サービス（インバウンド対応含む）
- イベント会場へのアクセス案内及び帰路の乗車案内
- その他（忘れ物対応、バス乗降時の安全確保、路線障害の情報提供など）

図 くるりんばすの利用案内風景（日進市役所）（再掲）



図 岐阜バス案内人「シェルパ」



（資料：岐阜バス NEWS RELEASE（令和3年9月17日付））

⑨乗継割引や乗継券のあり方の検討		方針1	方針2	方針3	11 将来検討される 施策について 	
			○			
事業内容	くるりんばす相互やくるりんばすと他の公共交通との乗り継ぎについて、乗継抵抗が緩和される割引の導入や乗継券の発行等のあり方を検討します。					
実施主体	日進市・交通事業者					

【事業事例等】

半田市では、主に幹線道路で運行する路線バスをはじめ、地区内の主要な施設をめぐる地区路線 A、他の公共交通が運行されないエリアをきめ細かくめぐる地区路線 B まで、段階的な公共交通網が形成されています。

こうした公共交通網の中で、路線バス2路線の市内区間、地区路線 A・B6路線の計8路線共通で、1日乗り放題となる「半田市内共通1日乗車券」を設定しています。

図 半田市公共交通バスと1日乗車券



(資料：半田市 Web サイト)

⑩公共交通を学び、利用を高める 取組みの展開		方針1	方針2	方針3	3 全てのひとに 健康と福祉を	11 住み続けられる まちづくりを	13 気候変動に 適応する
		○		○			
事業内容	子どもや高齢者を主な対象としたバスの乗り方教室の開催、市民、企業、学校、転入者、来訪者等を対象としたモビリティ・マネジメントの実施等、みんなが暮らしの中で公共交通を利用する行動様式を学び、実践する取組みを展開します。また、バス無料の日の制定や免許返納者への公共交通利用優遇措置の充実、定期券販売所の増設等、公共交通の利用を高める取組みを展開します。						
実施主体	日進市・地域・保育園・幼稚園・小学校・交通事業者						

【事業事例等】

小牧市公共交通利用促進協議会では、外国人の方々にこまき巡回バスの乗り方を知ってもらうため、小牧市国際交流協会(KIA)を協力して、日本語教室に通う生徒を対象に「外国人向けバス乗り方教室」を開催しています。

図 外国人向けバス乗り方教室の様子



(資料：小牧市 Web サイト)

⑪公共交通を考え、愛着や 興味・関心を高める取組みの支援	方針1	方針2	方針3	3	11	13
			○			
事業内容	既存公共交通に関する意見交換の場や、少量輸送等新たな公共交通の研究、その導入可能性を検討する場など、地域住民が地域の公共交通を自ら考える場の設置や活動を支援します。 また、バス停周辺の清掃や緑化の推進、地元出身有名人によるくるりんばすの車内案内の実施など、地域の公共交通への愛着や興味・関心を持っていただくとともに、市外部からの訪問者を増加させる取組みを実施・支援します。					
実施主体	日進市・地域・交通事業者					

【事業事例等】

瀬戸市の菱野団地コミュニティ交通運行協議会では、2018年8月6日より「住民バス」を運行しています。毎月開催している協議会では、菱野団地内全世帯アンケートや、各種利用促進策の実施、まちのイベントとの連携などについて議論しています。

図 菱野団地コミュニティ交通運行協議会の様子

運行協議会の様子（※毎月開催）



運行再開に向けての様々な協議



子どものアイデアあふれる
車両デザイン及び愛称の募集・選考



バス停や啓発グッズの作成



新しい住民バス出発式の開催

（資料：令和元年度「エコ モビリティ ライフ推進表彰」資料）

⑫公共交通の運行を支える 企業・地域の取組みの支援	方針1	方針2	方針3	3 すべての人に 健康と福祉を	9 産業と地域経済の 活力と成長を	11 住み続けられる まちづくりを
	○		○			
事業内容	くるりんばすの車内広告やバスマップへの広告掲載等、企業や地域へくるりんばすの運行を支える取組みへの協力・協賛を募ります。 移動支援事業を実施する地域に対する補助・支援・助言等、地域の公共交通の維持に向けた必要な支援を行うとともに、介護事業者、商業施設、病院等が所有する車両の空き時間を活用した地域バスの運行の仕組みを検討します。					
実施主体	日進市・企業・地域					

【事業事例等】

高齢者の外出手段・機会の確保や、交通空白地域解消のため、既存の公共交通と連携した「チョイソコとよあけ」が豊明市で運行されています。利用者の乗車料金と、自治体を含む 50 以上の地域のスポンサーからの協賛金によって事業化されています。

図 チョイソコの事業構造（チョイソコとよあけの例）



(資料：チョイソコ概要資料)

本計画に基づく各事業は、日進市地域公共交通会議が実施主体となって進捗を管理することとします。各事業の検討・準備期間及び実施時期、実施主体は以下の通りとします。

事業内容		—— 検討・準備 —— 実施																		
		2022(R4)		2023(R5)		2024(R6)		2025(R7)		2026(R8)		2027(R9)		2028(R10)		2029(R11)		2030(R12)		実施主体
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
① 需要に応じた東西方向の公共交通幹線軸の運行維持																				交通事業者
② 既存路線の見直しによる南北方向の公共交通軸、準幹線の確保・維持																				日進市・交通事業者
③ 既存交通資源を活用した新規幹線の導入に向けた検討																				日進市・大学・関係機関
④ 環境にやさしい公共交通便利に利用できる環境整備の推進																				日進市・市民・企業・大学等
⑤ 公共交通の安全な利用と運行を確保する施設・空間の整備・改善																				日進市・交通事業者
⑥ 公共交通を楽しく利用できるイベントの開催等																				日進市・交通事業者・地域・企業
⑦ バスコンシェルジュサービスの実施																				日進市
⑧ 公共交通を安心して利用できる情報・案内の提供																				日進市・交通事業者・尾三地域各自治体
⑨ 乗継割引や乗継券のあり方の検討																				日進市・交通事業者
⑩ 公共交通を学び、利用を高める取組みの展開																				日進市・地域・保育園・幼稚園・小学校・交通事業者
⑪ 公共交通を考え、愛着や興味・関心を高める取組みの支援																				日進市・地域・交通事業者
⑫ 公共交通の運行を支える企業・地域の取組みの支援																				日進市・企業・地域

6. 計画の達成状況の評価

1) 公共交通ネットワークの評価の基本的な考え方

本計画で示した事業を計画的に実施し、設定した目標を達成するため、PDCAサイクルを実行します。

各事業については、実施主体が毎年度評価・検証を行い、日進市地域公共交通会議で進捗を管理し、日進市が日進市地域公共交通会議からの助言を受け、改善策を検討します。

計画全体としては、中間年度及び最終年度に日進市と専門部会が協働して計画目標の達成度について評価・検証を行うとともに、目標未達成の場合には要因を分析し、日進市地域公共交通会議へ改善案をはかったのち、必要に応じて地域公共交通計画を見直します。

図 本計画の推進体制



表 計画スケジュール（計画期間）

	2022年度 (令和4年度)		2023年度 (令和5年度)		2024年度 (令和6年度)		2025年度 (令和7年度)		2026年度 (令和8年度)		2027年度 (令和9年度)		2028年度 (令和10年度)		2029年度 (令和11年度)		2030年度 (令和12年度)	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
事業の計画	次年度実施事業の計画																	
事業の実施 事業内容の評価	事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)		事業の実施 (利用促進等)	
目標達成状況の 確認・評価	実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価		実施した事業の 状況確認と評価	
改善・反映	毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目		毎年の 評価項目	
交通計画	次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映		次年度以降の実施事業 改善・反映	
	必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し		必要に応じて 部分見直し	
	地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定		地域公共交通 計画策定	
	中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し		中間見直し	
	利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等		利用促進 アンケート 乗降調査等	
	利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等		利用促進 中間見直し 協議等	
	利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等		利用促進 次期計画 協議等	
	中間評価		中間評価		中間評価		中間評価		中間評価		中間評価		中間評価		中間評価		中間評価	
	次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定		次期公共交通計画 策定	

2) 計画の評価指標と確認指標

本計画全体の評価は前ページに示す計画期間の中間年次及び最終年次に行うものとし、その評価に使用する指標は5章で示した計画目標及び方針別目標とします。

また、計画の進捗状況について、計画目標及び以下の3項目を計画の確認指標として、毎年度確認・評価します。

- 路線単位の利用者数
- くるりんばす、名鉄バス日進中央線の利用1回あたりの公費負担額
- 地域公共交通の関係者が連携した取組みの件数

表 計画の目標（再掲）

指標	現況値	目標値
■計画目標		
日進市内の公共交通利用者数	19,082,598 人	
■方針別目標		
幹線軸の公共交通利用者数	18,722,984 人	
「乗り継ぐバス停の待合い環境」の不満割合	12.2%	
市民の公共交通利用割合	75.4%	

表 路線単位の利用者数【確認指標】

路線		2019 年度（令和元年度）
鉄道	赤池駅	12,406,344（人／年）
	日進駅	1,881,221（人／年）
	米野木駅	1,169,258（人／年）
名鉄バス	愛知学院線	973,123（人／年）
	岩藤線	787,910（人／年）
	名商大線	147,026（人／年）
	星ヶ丘・豊田線	1,273,138（人／年）
	日進中央線	120,964（人／年）
くるりんばす	赤池線	63,766（人／年）
	米野木線	27,453（人／年）
	三本木線	31,750（人／年）
	梅森線	43,899（人／年）
	五色園線	72,097（人／年）
	岩崎線	30,042（人／年）
	循環線	54,607（人／年）
タクシー		

※鉄道は乗者人員、名鉄バス・くるりんばすは利用者数として算出

表 利用１回あたりの公費負担額【確認指標】

路線	2019 年度（令和元年度）	2020 年度（令和２年度）
くるりんばす	353（円／回）	535（円／回）
名鉄バス 日進中央線	55（円／回）	245（円／回）

※公費負担額（国や県からの補助を含む）＝運行経費－運賃収入